

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

（別紙5）

事業所名	発達相談支援 叶axy（児童発達支援）	公表日	令和8年3月31日
------	---------------------	-----	-----------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2	長期休暇になると手狭になるが、その中でも何が出来るかを子どもたちが自分で考える機会になって	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1		下校時間や、学校行事により送迎が難しいこともあるため、保護者への協力や、学校を絞ることも検討に入れる必要がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	トイレをあえて階段にすることで、昇り降りの練習になっている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日の次亜塩素酸での消毒・掃除を行い、空気清浄機も設置している。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	月1回の会議を行い把握に努めている。	
	9 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	月1回の会議を行い把握に努めている。また、研修等も月1回外部委託し、他にもZOOM等で研修を行っている。	
適切な支援の提供	10 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	ホームページやHUGシステムにて公表している。	
	11 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0		
	12 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0		
	13 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0		
	14 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0		
	15 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	16 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0		
	17 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	1年の成長を比較できるよう、前年度のプログラムを取り入れアセスメントを行っている。	
	18 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	個別療育と集団療育と両方行うことで、より成長を促している。	

	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	送迎が早い段階である場合は行うことが難しいため、前日に行うよう努めている。	
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	必ず話し合いながら、行動記録への反映もやっている。	
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	記録は1か月ごとに印刷しカンファレンスで精査している。	
	22	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
関係機関や保護者との連携	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	24	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	毎月、保育園・幼稚園・相談支援事業所に報告書を手渡しして話をしている。	
	25	併用利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	出来るだけ移行に向けて支援を行い、結果を出している。	
	26	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	こちらから保護者や相談員に持ちかけて会議開催を打診している。	なかなか学校の参加が難しいため、そのときは情報提供書を渡すようにしているが、もっと福祉と教育が対等に連携していけたらと感じる。
	27	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	6		専門家の研修を受けているので、特に行っていない。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	他部署の放課後等デイサービスとの連携を図っている。	
	29	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
保護者への説明等	30	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等の参加できる研修の機軸や情報提供等を行っているか。	0	6	常に相談の取れやすい環境はついている。	来年度に、ペアレントトレーニングを開催する予定。現在は保護者にアンケートを実施し、プログラムを作成中。
	31	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	32	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	33	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	34	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	療育中に保護者と共におこなう母子療育も必要に応じて行っている。	
	35	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	36	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HUGやInstagramを使用している。	
	37	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	モザイクなどを取り入れ、確実にしている。	
	38	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	構造化や計画相談員、幼保との連携によって行っている。	

	39	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		月1回行われていた「ふれあい市」を道路工事のため一時中断しているので難しい状況。落ち着けばまた再開予定である。
非常時等の対応	40	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	「安心を基盤に成長を」することが理念なので、怖がらないように絵本や動画などで勉強し、避難先の市役所へ避難訓練を行って	
	41	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	上に同じ	
	42	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	契約時に行っている。	
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	確実に契約時に聞き取っている。	
	44	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	外部研修の中で、ヒヤリハット事例などをもとに研修、実施している。	
	45	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	施設に掲示していても、事業所送迎の為保護者が確認する手段がない。そのため、HUGシステムを導入し、周知できるようにした。	
	46	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0		
	47	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	48	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	身体安全の確保、施設による飛び出し注意など、説明したうえで記載、もしくは業務日報に記している。	